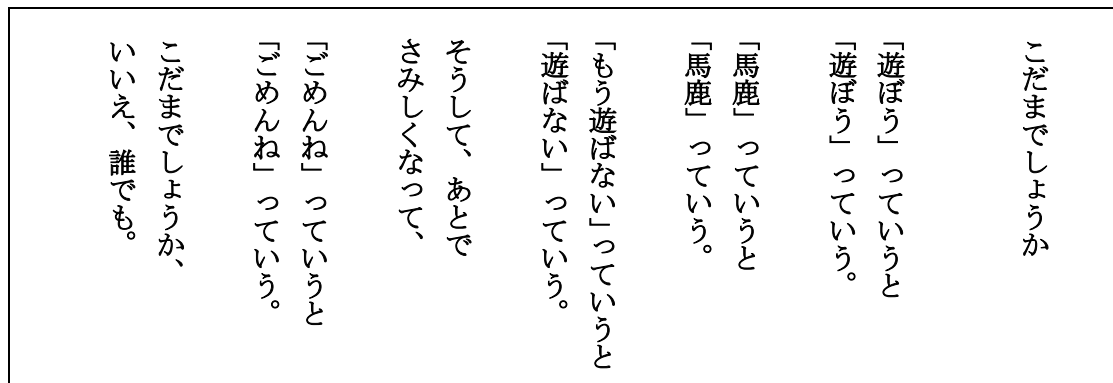


## 学校だより

## こだまでしょうか、いいえ、誰でも

5月20日から分散登校が可能になりました。今日から、いよいよ学校が再開されます。やっぱり学校には、子供たちの笑顔と元気な声がいちばん似合うなと嬉しくなります。子供たちから学校に届いたハガキには、「はやく、学校に行きたい。友達と遊びたい。友達と一緒に勉強がしたい。給食が食べたい。」等が書かれていました。学校が再開されることは、嬉しいですが、今まで当たり前前にできていた教育活動が、コロナウイルスの感染状況から、中止や変更を余儀なくされます。そんな中においても、子供たちが、「学校は楽しいところ」と思えるようにしていきたいです。

研修で頂いた本の中に、金子みすゞさんのことが取り上げられていたので紹介いたします。



東日本大震災後、民間放送各社はテレビのCMを自粛しました。その代わりにACジャパンの提供したものが放映され、その中に、みすゞさんの『こだまでしょうか』が紹介されたそうです。もともこのCMは、電通が製作し、「こんな大変な時に相応しいものを」ということで選ばれたものの1本だったそうです。けれど、テレビ局には「くり返し、くり返しうるさい」「自殺した者の作品をなんでこんな時に流すんだ」という苦情があったそうです。しかし、震災後10日余り経ったある日、南相馬市の男性から「こだまでしょうかの詩をFAXして欲しい」と金子みすゞ記念館に電話が入ったそうです。その時、みすゞさんの思いが、辛い思いをされている方に“こだま”していると安堵したそうです。

こだまは「ヤッホー」と言えば、「ヤッホー」と返してくれる。私たち人間は、往々にして、他の人が「痛いよ」「辛いよ」と訴えても「それぐらい我慢しようよ」と否定してしまう。痛み、辛さに寄り添ってもらった方が、誰でも嬉しいと思う。つまりこだまするということは、丸ごと受け入れるということ。“こだま”出来るのは、こだまだけではない、誰でも“こだま”出来るし、“こだま”しましょう、というのが、作者みすゞさんの気持ちだそうです。

人間は、厳しい状況に置かれると、他者を非難したり、差別したりする傾向があります。今、こんな時こそ互いに信頼し合い、協同して命を大切に作る営みをしていく時だと思えます。「がんばれ、がんばれ！大丈夫、大丈夫！」だけでなく、子供も先生も保護者も相手にしっかり寄り添い、“こだま”してあげることが、真のやさしさを身につけることに繋がっていくような気がします。